

第5回 多摩市自治推進委員会 要点記録

- 1 日時：平成29年3月16日（木）午後6時30分から午後8時30分
- 2 場所：多摩市役所3階 特別会議室
- 3 出席委員：和田委員長、島野委員、高澤委員、富田委員、小城委員
- 4 欠席委員：西川副委員長
- 5 議事：今後の取り組みについて

1 開会

委員長 第5回自治推進委員会を開催する。

2 議事

委員長 本日は、今後、自治推進委員会でどのようなテーマを中心に議論するかを話し合いたい。前回、次の4つのキーワードが出てきた。「コーディネーター、ファシリテーターの活躍と育成」、「気づきの調査や『気づき・きっかけ』の仕掛け作り」、「市民自治の理念や価値の再確認」、「事業提案等のアクション作り」である。

前回の会議で皆さんからいただいた意見等と、先ほど事務局から説明いただいた資料をもとに意見交換したい。

本日の配布資料について、事務局より説明をお願いしたい。

参考資料1及び2に基づき、事務局から内容について説明を行った。

何かご質問等はあるか。

委員 仮に参考資料2の小学生からいただいた、まちづくりに関する提案を採用するのであれば、教育や成長のために必ず、実施することを小学生に伝えてほしいと思う。

委員 今回の小学生のように、団体で提案すると、意見として目に入りやすいと思う。個人的に送られてくる意見については、市はどのように扱っているのか。

企画課長 個人からの意見等に対しても、回答を希望されている場合は、必ず回答している。

委員 どのような提案があったのか、市民が見られる仕組みはあるか。

意見の重要性の判断は、最初に受け取る職員の価値観で決まることもあると思うが、少数派と思われる意見の中にも、実は重要度が高かったり、市民の賛同が集まるものがあるかもしれない。

市民の提案が実際に実現されなくても、意見として受け取られたことがわかると、市民も自分の意見を聞いてくれている感覚ができ、さらに市民自治に参加すると思う。

企画課長 毎年、広報広聴課が市民の意見をまとめており、冊子にしている。市役所行政資料室で閲覧できるほか、公式ホームページでも見ることができる。

委員 参考資料にある小学生からの提案の中で、高齢者との交流やごみゼロ活動については、すでに実現されていると思う。

そうではなく、多摩市オリジナルのお土産づくりなど大人の力を多く借りないと実現できないようなものを叶えられると良い。

委員 多摩市のオリジナル特産物が提案できると良いかもしれない。

委員長 小学生からいただいた提案が、今期の自治推進委員会の取り組みとつながるとい
いと思う。

第5回委員会の前に委員の方には、今後の取り組んでみたいことなどについての
アンケートをお願いし、ご協力いただいた。

アンケート調査の結果を踏まえて何か意見等はあるか。

委員 今期のテーマは、「気づきときっかけ」が良いと思う。

地域には、様々な団体がある。市役所では、実施団体の情報を多く持っておりい
ろいろ提供してくれる。しかし、市民は、そのほとんどの活動について、あまり知
らないのではないかと思う。様々な情報がある程度絞って提供するなど、現在の市
民の意識や、活動団体にインタビュー調査を行い、気づきときっかけの仕組みを提
案できたら良いと思う。

委員 今回挙げた4つのキーワードについて、第五期以前の自治推進委員会において
も、課題や提案として挙げられている項目もある。

これまでの委員会で提言された案は、本委員会から再度提言しないほうが良い。

新しい提言についても、実現できないようなことに取り組んでも意味がない。ど
こまでなら実現できるかを考える必要がある。

例えば、これまで市役所が取り組んできたことや市の仕組みが市民に上手く伝わ
っていない。その状況を改善していくため、市民にどのように伝えていくのか、逆
に、市民からの声をどのように反映するのかを検討する必要があると思う。

委員 取り組みについて、どこまで出来て、何ができないのかの調査を行い検証する。
気づきも大事であるが、どのように発信していくか、伝えていくかも考える必要
がある。

委員 実現する、しないにかかわらず、市役所のどこかで提案について考えてくれてい
るというのが、市民に上手く伝われば、市民参加が楽しいと感じるのではないか。

委員 市民や行政から見て、「良い意見」というものなら、すでに実現されているはず
である。

これまでの委員会からの提案の中で、実現に至っていないものは、一度忘れても
いいかもしれない。今期は新しく、簡単でわかりやすい何かを実施したいと思う。

例えば、「市民の意見を片っ端から叶えてあげる」というのは面白いかもしれな
い。「気づきは大事」と言っている人ですら気づいていないこともあると思う。

行政側として実現が難しいものについて、何がどのように難しいのかを考える。
そこから実現できる施策を考えても良いのではないか。

委員長 今までにないような新しい施策を提案するという意見が挙げた。

それを実行し、フィードバックするというのも行ってみたい。

委員 実現されていなくても、これまでの委員会の提案が良くないとは思わない。これ
までの委員会の提案があって今があると思う。ただ、実際に実現が難しいと感じる
提案もあるので、今までの提案を参考にしながら、今期のメンバーでしか思いつか
ないような提案とアクションを起こしたいと思う。

小学生の提案にもあったが、多摩市のお土産を考案するのは良いと思う。柔軟な
小学生の発想と、地域と交流・協力しながら、製作する。市民が参加しやすいアク

ションづくりであり、人と人とのつながりができる。

委員長 その際には、市民と関わりながら調査する「アクション・リサーチ」という手法もある。私たちが考えていることを市民に投げかける形で調査を実施して、そこから答えを導き出す手法である。

悪い点、失敗点からも、市民自治への提案が導き出せるかもしれない。

委員 これまでの委員会について、初期は、自治推進委員会が設置されたばかりで、市民自治に対しても土台作りがしやすかったのだと思う。

その後は、提案してもそれが実現されているのかは、市民の立場からはわからないようになってきているように感じる。

見えないのであれば、見方や見せ方を変えて実施しないといけないと思う。

企画政策部長 自治推進委員会の第一期、第二期の時期は自治基本条例にあるように行政の評価を目的として議論を行った。当時の役割としては、行政のPDCAサイクルの確認等を行う検査・評価機関だった。評価の課題や改善点については内部でも修正を行い、庁内の計画や予算等の資料改善を図った。

行政評価については、外部機関による評価が行われるようになり、その後の第三期以降については、地域自治のあり方を検討するような役割に変わっていった。行政としてすぐに実現できるものではないが、新しい仕組み作りとしては、地域福祉のサポート体制を構築する等、少しずつフィードバックしており、形になりつつある。

委員長 今期の委員会でも課題や問題点は発見できているが、どうしたら良いのかというのが難しい点だと思う。これまでと視点を変えて私たちがすべきこととは何か。

市民参加が活性化されるようなアクションを起こし、成果を出さなくてはならない。

委員 情報発信については、第5期多摩市自治推進委員会からの報告書「たまおが行く」の刊行やツイッター等で発信を行っているが、「LINE」や「Facebook」等のSNSは実施しているか。また予定はあるか。

企画課長 「LINE」及び「Facebook」については未導入である。

ツイッターについては、現在2000人程のフォロワーがいる。

委員 SNSは様々な提案を市民から得ることができるし、緊急メール等も発信できて、良いと思う。

委員長 ツイッターもそうであるが、実際に行っていたとしても市民が知らない場合がある。

室内で議論ばかりしていても、理想ばかりになってしまうので、提案だけでなく、実際に具体的な活動を行ってみるのはどうか。

それが、情報にも実験にも、アクションにもなり、何か

また、お土産づくりについてはどうか。協力してくれる手法が見つかるかもしれない。市民はいると思うが、委員会としてどこまでできるだろうか。

委員 実際に実施するとなると、大きなプロジェクトになると思う。

委員長 これまでの委員の皆さんの意見をまとめると、今期の委員会のテーマは「気づきときっかけn仕掛けづくり」となる。また、市民への情報提供、アクセスの方法や

手法についても提言に入れていきたい。

委員 　これまで声をかけてきていない、様々な層から意見を聞いてみるのも良いと思う。例えば、小学生や中高生から意見をもらう。小さいころから市民参加をすることで市民自治が身近に感じながら育つと思う。また、声を出すことが大切だということを知ってほしい。

委員長 　次回の委員会までに、実際に実現の可否は別にして、具体的にどんな実験や活動をしたいかアイデアを考えて、意見を出し合うのはいかがか。

委員 　「知らないうちに気づかされていた！」というのが理想である。

委員 　例えば、アンケート調査を行っているうちに、新しい市民活動が生まれというイメージは確かに面白いと思う。

　例えば、多摩の名産は？から調査を行い、市民に聞いているうちにまちおこしができたというのは、理想だと思う。

委員 　小学生や中学生は、授業で習っている知識から提案してくれるかもしれない。多摩市では、土地の開発時に石器が発掘されたりしており、それを学んでいるので、例えば多摩市オリジナル土偶マスコットみたいな面白いものを提案してくれると思う。それを市民が主体となってできたらいいと思う。

委員長 　あくまでも参考程度に聞いていただきたいが、以前多摩市では、行政主体で「手土産プロジェクト」を行ったことがある。実施機関としては、行政、市民企業、NPO団体と市民であった。行政と多くの市民が関わり意見を出し合い作り上げることができたので、活動内容としては面白かったと感じている。

委員 　そのような活動が、市民主体で実現できたら、市民参画のステップアップになると思う。

委員 　実現ということを考えると難しいかもしれないが、やはり多摩市には、有名なサンリオや日本アニメーションがあるので、コラボレーションできたら良いと思う。

委員長 　市民自治は、直接のものづくりでなく、その過程で育まれるものだと思うが、その後、ものづくりにつながり、いつまでも続いていけるというのが理想だと思う。いただいた小学生の提案が広げられたら良いのだが。

委員 　提案や意見を聞くのであれば、多摩市内の全小中学校の児童生徒に聞きたいと思う。それは可能であるか。

委員長 　管轄部署が教育委員会となるため、アンケート実施などの程度できるのか確認できる。またやって欲しいことをお願いできると思う

委員 　SNSで発信・受信が手軽にできるシステムだと何か簡単なことからできるかもしれない。

　わかりやすいものとしては、提案のコンクールを実施し、優勝した提案を実現するなどはどうか。

委員 　多摩市内のみダウンロードできるアプリとかあると面白いかもしれない。

　市内にいないとダウンロードできず、お得な情報を受け取れない仕組み等があると面白い。また、年代や地域によって与えられる情報も変える。例えば、高齢者向けのワークショップなら高齢者にのみ通知がされるとか、小学生であれば、実際はないと思うが、多摩市にしか出現しないポケモン情報を通知する等が考えられる。

委員 SNSやたま広報を活用して、参加協力団体を募る。そして協力してくれる人(サポーター)を探す。そこから様々なところに繋げていき、第六期の任期が終わった後も続くような「人財」を探す。これが最終的には、見える化をすると、まちの活性化につながると思う。また、幼いころから参加しやすい環境が作られていれば、教育にもなると思う。

委員長 確認になるが、今期のテーマは「気づきときっかけの仕掛けづくり」でいかがか。

全員、了承

仕組み作りの具体的な案を出して、今期中に実際に実験や調査を行い、そこから新しい手法が最終的に提言として報告できたら良いと思う。

本日の議論の中でも、多摩のお土産やオリジナルアプリなど、面白い意見が出てきた。もっと具体的な案や方法を次回議論したいと思うので、各自考えてきていただき、3月末までに事務局まで連絡してほしい。

3 その他

企画課 第6回自治推進委員会については、5月18日(木)午後6時30分より市役所3階特別会議室にて行う。

第7回自治推進委員会については、現在調整中であるが、7月を予定している。委員の皆様には改めて日程調整の依頼を連絡する。

4 閉会